

令和3年度第1回釜利谷協議会議事録（7月27日開催）

【出席者】（委員）	小林正稔	しらかばこども家庭支援ステーション	副所長
	佐々木悦子	桜美林大学	入学部アドバイザー
	小國 徹	横浜市立金沢動物園	園長
	石井ともみ	P T A	会長
	岡本裕子		校長
（事務局）	副校長	高橋雅彦	教頭 角本賢一
	総括教諭	小曲昭男（学校評価部会）	穂積啓之（SSE 部会）
		角井 淳（SLS 部会）	吉田真穂（学力向上部会）
		大城善彦（キャリア部会）	近藤純子（地域協働部会）

1 校長あいさつ

- ・ご多忙の中、本日このようにお集まりいただき感謝している。令和元年度に神奈川の全県立高校に学校運営協議会制度が導入された際に、本校の釜利谷協議会がモデルとなった。設立段階からご支援くださっている小林先生にもお越しいただいている。委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りたい。

2 釜利谷運営協議会委員及び会長、副会長の選出

会長：小林正稔 副会長：岡本裕子

3 協議

(1) 令和2年度釜利谷高等学校の学校運営について報告

資料参照

(2) 意見交換

佐々木：再定義用ミッションについて

基本的には賛成だが、「基本的生活習慣の確立」はクリエイティブスクールになった最初から入っていた大事な内容である。是非入れてほしい。

小林：「基本的生活習慣」は、一見、教育からかけ離れているようだが大切なので加えることに賛成。

佐々木：○S L S 部会の内容について

- ・生徒の自己管理能力（食事、睡眠等）が未熟なのではないか。病気にかからないようにするための指導も大切（たとえばカラーコンタクトは目に悪いなど）
- ・部活について、一般的には女子のスポーツ部の加入割合が低い。釜利谷はそれほどでもなく、男子の入部率が低い。魅力的に思えるような部活動の宣伝ができればよい。体験活動の参加数を見ると、スポーツ系が多いので、運動が嫌いというわけでもなく、ニーズはあると思うので関連づけて加入率に結びつけられるとよい。

○学力向上部会の内容について

- ・「チャレンジ」の授業の中で、視写や聴写をやったとある。五感を使い、記憶させその保持能力を伸ばすことをねらいとしている。その成果が表れているかわかれば知りたい。

吉田：視写や聴写を行う機会は割合的に少ないので、効果がどれくらいあるかはわからない。

小國：釜利谷は昔バレーボール部で全国優勝しているの、今の生徒とうまく関連づけられるとよい。

小林：○S L S 部会について

- ・部活動の名称が古いので、たとえばサッカーの中に「フットサル」やバスケットボールの中に「3×3」など新しいものをとり入れていくとよいのではないかと。少人数でもできるものを入

れるとよいのではないか。単独でチームを組めないと意味がないのではないだろうか。社会に出た後もそれらのスポーツはつながる。

- ・栄養や衛生管理の講座がない。動物園アカデミーの体験活動で、人間の衛生管理などもコラボレーションして教えていくなどしたらどうか。

○SSE部会について

- ・感覚的にとらえられていて良い。もともと、ライフスキルは生活力をつけること。一つでもできると他のものもできるようになる。やりとりができるようになるということ。

○学力向上部会

- ・「生活力」をつけるために「家庭経済」を教えるとよい。いくら稼いでいくら使ったらよいか。入るお金より、出るお金が多いので貧困になる、というようにお金の使い方を教えるとよい。
- ・勉強がわかることを実感させることが大事なので、日々それに取り組んでいる先生方に敬意を表したい。生徒は、確実に力をつけている。
- ・中教審は「学力の向上」から「資質の向上」にと変わった。学力だけでなく、人間としての総合力を上げていくことが求められている。高校の間に総合力の基盤を養うことが必要。数字では評価できない部分を向上させていく。日頃こんなことがあったと先生と生徒との触れ合いを声にあげてほしい。以前は先生と生徒が大声で言い合っていた。それが今は、廊下で談笑している。

○キャリア部会について

- ・今の大学は、「シチズンシップ（よき社会人）を育てる大学」と「オピニオンリーダーを育てる大学」の2つに分けられる。もう少し大学進学を薦めてよいのではないか。開拓するとよい。
- ・関東学院大学は、発達障害の学生を受け入れるとしている。大学の中で、配慮が必要な生徒の情報共有もしている。カウンセリングセンターも充実している。

吉田：土曜教室やサマーセミナーは参加者が少ないが、個別に対応している教員も多い。生徒にとっては、知っている先生から教わりたい。学校全体として取り組んでいくにはどうしたらよいか。

小林：たとえば職員全員にセミナーをやってもらう。教えることから離れ、趣味など好きなことをやってもらう。それを教育につなげることもできる。

石井：サマーセミナーを強制にすれば行くかもしれない。親も参加したいぐらい・・・PTAも何らかの形で協力できたらいい。

佐々木：地元中学校で不登校の生徒の学習支援をやっている。生徒は教室にかなりの圧を感じており、教室に入れない。SSEをやっている釜利谷の生徒は自分のことを分析できているのではないか。

石井：子どもはレスリング部で、高校から始めたにもかかわらず全国大会で3回戦まで進めた。学習面でも推薦で大学進学をめざしている。釜利谷高校が本人にとっても合っていて入学して良かった。

小國：レスリング部やボウリング部など、珍しい部活があるのなら、「口笛部」などはどうか。楽器などのお金もかからない。

近藤：学校ホームページについて、ご意見やご感想があればうかがいたい。

石井：写真が多い方が魅力があり見たくなると思う。

佐々木：ホームページ上の図書通信は図書委員が書いているのか？

学校側：図書館司書の方が書いている。

佐々木：図書委員など、生徒の取り組みが載せられるといいのではないか。

4 事務局から

(1) 今後の日程

次回の釜利谷協議会 11月19日（金）午後（公開研究授業をご覧ください）